

「釜戸、稼働しました。火の神様に守られて…」



2月1日に、東霧島神社から「火の神様」の御幣(ごへい)をいただけてきました。御幣とは、神様が依り代とされるもので、竹に半紙で作った「紙垂」(しだ)を挟んだものです。簡単に言うと、御幣を火の神様として祀るということです。釜戸を造ってくださった、レジェンド左官の平川さんが、『初めて火入れをするときに、酒や塩、米をまいて、火の神様を拜んでください』と教えてくださいました。この日、4歳児(もも組)と5歳児(ばなな組)の子ども達は、釜戸の周りに集まって、ちょっとした神事を行いました。「火の神様」に、『おいしいご飯が炊けますように…』、『火事になりませんように、お守りください』と小さな手を合わせていました。

日本には、古来から自然界や家のあらゆるところに神様がおられるという考えが存在します。先日の庭の焚火の囲炉裏を踏いで遊ぶ子どもがおり、注意しました。日ごろから囲炉裏には火の神様がおられるから物を捨てたり、泥をかけたり、足を踏みいれてはいけないことを話していました。ただ『危ない』だけではなく、例えば子どもでも**冒したらいけない場所があることを伝える必要を感じています**。迷信とか非科学的と言われればそこまでですが…。

その冒したらいけない場所を冒さないことが、子ども達自身に降りかかる、けがや事故から守られているのではないかと思います。

一見、保育の現場からは程遠い話のように思われがちですが、実は結構あります。手洗い場に足で上がることも『水の神様がいらっしゃるから…』。プール開きの時に水の神様に手を合わせたり…。旭丘に散歩に行った時も忠霊塔(戦争で亡くなった方の慰霊碑)に上がったり、お尻を載せるなどの失礼が無いように必ず、子ども達に話をします。庭石1つも持って帰ることを禁止しています。

正月は年神様がいらっしゃる。繭の餅は田の神様に奉納。豆まきで厄を払い、福を招く。ひな祭りは女の子の健やかな成長を祈る…。『**目に見えないものに頼り、よりどころとする**』**そんな一年の繰り返し**が尊く、『あー日本に生まれて良かった…』と思うこの頃です。

「進学まであとわずか…。」

1月の12日から5歳児(ばなな組)と私が、一緒に食事をとっています。昨年の今頃は、うらやましそうに見ていた、この子ども達が、今度は自分達の番になったことを、それは喜んでくれています。一年生への期待や家での出来事など、子ども達の口から楽しい話が飛び出しています。毎年、正月過ぎから始まるこの食事は、おおむたこども園の恒例、代々引き継がれています。(3月からは担任と食事を共にします)

ぺんぎん、ぱんだ、らいおんの順に一日毎に回ってくるこの食事は、段取りがとても大事です。クラスの仲間とどこで食べるかあらかじめ、話し合っておくこと。いつもの時間より早めに片付けてテーブルのセッティング、片付けなど全て子ども達に任せてあります。

事務所の前のテラス、木漏れ日デッキやケヤキデッキ、ヤマモモの木の下など。子どもが選ぶ、食事の場所は様々。せっかくトレーにおかずなどを載せて持ってきて、段取りをしていないと置くところに困ります。何回も行ったり来たりすることの無いようにしないとイケません。トレーを持ったまま靴が履けるように、玄関に靴を置いておくなど、それぞれの工夫があり、面白いです。

スプーンから箸への移行と確認も行いました。ばなな組全員が、箸を使って食べています。育児担当制保育を始めて、4年。少人数による食事や指の三点を意識した玩具や遊びを多く取り入れてきました。年々その成果が出ています。テーブルやトレーを汚す子どもは、いません。みんなきれいに食事ができています。近年、箸を正しく使える子ども達も増えています。今年はほぼ全員が正しく持っています。ただ、**使っているうちに癖が出てしまうので、次のことに気を付けるように話しています**。

①上の箸を中指の爪の根本にのせること

②親指は人差し指の下にくるようにすること



それぞれの指と箸は左のように、並行になります。家庭での食事の時も確認をお願いします。この三点で箸を持つことが、鉛筆握りにつながります。

こんなに穏やかに、食事がとれることは幸せなことです。学校では、そのやり方が違うでしょう。私たちは、子どもが徐々に無理なく学校生活が送れるようにしっかりと学校へ引き継いでいきたいと思います。子ども達には、分からないことや困ったことは、先生に聞くことも話しました。**自分から人に聞くことも大事な『生きる力』です**。